

受賞作品

【一般建築部門】

《最優秀賞》

ヒュッテナナナ

設計者：(株)ヒヤッカ 丸山 晴之
施工者：山崎建設(株)



【住宅部門】

《最優秀賞》

ぶんきょうのいえ

設計者：伊藤瑞貴建築設計事務所 伊藤 瑞貴
施工者：(株)深谷



《優秀賞》

福邦銀行フェニックス通り支店

設計者：(株)走坂建築設計事務所 水上 諭
施工者：三越建設工業(株)



《優秀賞》

恐神の住居

設計者：(株)ヒヤッカ 丸山 晴之
施工者：(株)名津井建設



《優秀賞》

福井中央公園

ビクターセンター御座所

設計者：ワシダ設計事務所 鷲田 裕之
板倉満代建築設計事務所 板倉 満代
(株)アルス建築事務所 乾 彰宏
施工者：(株)活衛工務店



《優秀賞》

阿難祖の家

設計者：永和住宅一級建築士事務所 木村 次郎
施工者：永和住宅(株)



《優秀賞》

icosagon

設計者：小笠原弘建築計画 小笠原 弘
施工者：(有)不動建設



《奨励賞》

春江中コミュニティセンター

設計者：(株)佐々木一級建築士事務所 佐々木 大介
施工者：松栄建設(株)・竹野建設(株) 特定建設工事
共同企業体

第5回ふくい建築賞 2018 報告

ふくい建築賞実行委員会
瀬戸川 信之

建築士会・建築士事務所協会・JIA建築家協会の設計3団体が主催し、福井県の建築業界全体の人材育成を目的に創設された「ふくい建築賞」は、5回目の開催となります。今年も県内建築関係10団体の協賛と県・福井市をはじめマスコミ4社の後援をいただき、心より感謝申し上げます。

本年度は6月18日から8月17日までの応募期間に、一般建築部門9点、住宅部門9点の合計18点

(昨年は18点)の作品応募がありました。

実行委員会の事前審査を経て9月11日、建築士事務所協会にて一次書類審査を行い、審査委員長に今回から新しく加わりました森 俊偉(としひで)(元金沢工業大学教授)、委員に五十嵐啓氏(福井工業大学准教授)、西本雅人氏(福井大学講師)の計3名の先生の慎重な審査と議論を経て一般4点、住宅4点の計8点が二次審査対象作品に選ばれました。

二次審査は10月12・13日の2日間にわたり審査員が現地を訪れ、直接設計者の説明とヒアリングを行いその後の審査の結果、一般部門で3点を、また住宅部門では4点を最終審査対象作品に選び、奨励賞

として「春江中コミュニティセンター」を選考しました。

11月24日（土）福井県中小企業大学大教室にて、最終審査会が開催されました。開催に先立ち、審査委員長の森 俊偉氏より「北陸と建築/私の取り組みから・・・」と題した講演会が行われました。氏が携わった地中海イスラム建築と集落の研究、池田町の「ファームコムニタ」越前町の「蟹ミュージアム」や最新作の「射水市の小学校」「小松高校木場潟ボート艇庫棟」など数々の建築作品を通して、北陸の集落・風土と建築の関係性が興味深くまた熱心に語られました。

引き続き公開審査開に入り、ノミネートされた7作品の設計者により各15分間のプレゼンテーション・質疑応答を経て、熱心な議論の後審査員の投票が行われ、一般建築部門では「ヒュッテナナナ」（14点）（設計者：丸山晴之氏）、住宅部門では「ぶんきょうのいえ」（14点）（設計者：伊藤瑞貴氏）がそれぞれ名誉ある最優秀賞に、優秀賞に「福邦銀行フェニックス通り支店」（11点）、「福井中央公園ビジターセンター御座所」（13点）、「恐神の住居」（13点）、



森 俊偉 氏による講演会

「阿難祖の家」（10点）、「icosagon」（12点）の5作品が決定しました。（（ ）内は獲得点数）

いずれの作品からも施主・施工者と共に「福井らしい建築、住まいとは何か」を考え創造に挑戦し実現していく設計者のパワーを感じました。最終審査会にふさわしい熱気に包まれ、審査員と会場で見守る70名余りの聴講者との緊張感も伝わってきました。

来場者アンケートから様々な感想をいただきました。講演会、公開審査、選考方法等はおおむね「良かった」という意見が多かった反面、「公共建築等の複雑な建築プログラム解決への評価が低い」「審査基準が明確とは言えない」「一般の方にわかりやすい納得感が薄い」「審査員の話が長くて要点がつかめない」等の厳しいご意見もありました。

今後の検討課題だと実行委員会でも感じており、この建築賞が永く続けていけるよう皆様のご理解と温かいご支援を心よりお願いします。多くの建築作品の参加こそが「ふくい建築賞」を未来に向けて育てる原動力になると感じております。

会員のみなさま、今年度も作品の応募参加を心よりお待ちしております。



授賞式記念撮影

■ 第5回ふくい建築賞2018 総評

審査委員長 森 俊偉（金沢工業大学名誉教授）

審査委員長への依頼があり、福井県土及び福井の建築を知るいい機会と、快諾しました。福井らしさを探求する点、公開審査を含む点も、特徴的な取り組みと感じました。書類審査、施主も同席する二日間に渡る現地審査、そして一般市民も参加しての公開最終審査会。十分な手順と議論を踏む審査プロセスにも感服しました。

審査の過程では、三人の審査員間でも意見交換し

ながらすすめました。建築表現の完成度は当然問うと同時に、その中で、○施設が建つ場所や地域の特性を抽出・理解しつつ建築に適切に反映しているか、○プログラム（施設内容等）上の前向きな提案や意図の有無、○これらを反映しつつ、空間構成や表現に提案や意図するものがあるか、○施主や施工者のコラボレーションが適切でうまく可動しているか等に、三者共通して関心が払われていたと言えます。

審査過程で、特に、最優秀賞各1点の選出に腐心しました。評価の視点の置き方で、評価基準が異なってくるからです。一般建築では建物の種別・役

割も多岐に渡り、設計の与条件にも差異と幅があります。住宅では、住まい手の住みこなしのスタイルと価値観がかなりのウェイトを占めてきます。一つのテーブルの上に乗せ優劣を計るのが難しい点です。それぞれの審査結果は、自らの作品を自問自答し評価する一つの目安値として、うまく活かしていくことが有効かつ大切なことと思います。

一般建築部門最優秀賞「ヒュッテナナナ」は、耐候性や省エネ配慮等でやや強引で気になるところもありましたが、一般建築と住まいの空間の接点に位置づく個人オフィス建築としてのプログラムの新鮮さ、時の推移の痕跡を留める計画敷地の新たな理解の仕方とその活かし方、構造方式とも一体化した空間構成の巧みさ等、チャレンジ精神も含めて高く評価できるものでした。

その他、「中央公園ビジターセンター」では、水平方向に城址へのビューを榨取るように延ばした建築フォルムの適切さと、多くの関係者のコラボレーションの成果を感じ取ることができ、「福邦銀行」は、大きなショーウィンドウのごとき親しみ感のある造りとインテリアデザインのうまさ及び民間オーナーと設計者の前向きな取り組み姿勢を感じ取ることができました。「春江中コミュニティセンター」は、多くの地域住民の参加を促すプログラムの工夫が輝いていました。

住宅部門最優秀賞「ぶんきょうのいえ」は、前庭アプローチ部分の取り扱い等に多少もの足りなさは

あったが、伝統的な造りの民家が年月の経過と共に積み重ねてきた物としての良さと生活の記憶を継承しつつ、同時に現代生活が快適に過ごせるよう創意工夫を図った信念と取り組み姿勢並びにその成果は十分評価できるものでした。

その他、「恐神の住居」は、包容力のあるワンルーム形式の内部空間と、さりげない建築ディテール表現、加えて適切に住みこなす住まい手のセンスの良さも感じ取ることができました。「icosagon」は、閉鎖的過ぎる点は気になったが、内開外閉のシステムを踏襲し、完成度の高いミニコスモ空間を生み出している力量は評価できました。「阿難祖の家」は、この集落が持つ明解な文脈を尊重しつつ、実直に快適な現代の住まいの空間を生み出している点が評価できました。

現地審査で各地を巡る中、魅力ある建築を生み出すフィールド足り得る、固有性豊かな福井県内各地域の風景を改めて目にすることができました。またそれぞれの関係者の熱意ある取り組みと、多くの良い作品を見せてもらう事ができました。評価には様々な視座があり、評価の優劣は後からついてくるものです。まず関心を持って積極的に参加していただく事と、より多くの作品応募にさらに期待したいと思います。常に前向きに思考し、取り組み、多く議論し、意見交換を図っていくことで、徐々により明解なふくいらしさが浮かび上がってくるものと信じます。

■ 第5回ふくい建築賞2018 の審査を終えて

審査委員 五十嵐 啓（福井工業大学 准教授）

2018年も引き続き審査員をさせていただくことになり、昨年と同様、審査基準を以下の通りとし応募作品を評価させていただきました。

「ふくい」と名のつく賞であることから、その建築が地域の暮らしや景観、歴史や文化に対し何らかの積極的な関係性（それが肯定的であっても批判的であっても）を持ったものであるかどうか。もうひとつは、その建築に関係して行われる日々の営みに対して、刺激なり歓びなりをもたらしているものかどうか。という2点である。

実施物件として様々な条件をまとめ上げる過程に

加えて、上記に挑む姿勢や志をもった作品だからこそ「賞」の名に値するのではないかと考えている。

一般建築部門での応募作品は10点であった。その中から福邦銀行フェニックス通り支店、春江中コミュニティセンター、ヒュッテナナナ、福井市中央公園ビジターセンター御座所の4作品が2次審査に進み、2日間の現地審査を経て、公開審査には、福邦銀行フェニックス通り店、ヒュッテナナナ、福井市中央公園ビジターセンター御座所の3作品が選考された。規模のみならず作品の諸条件が全く異なる中で選考に本当に悩んだが、現地審査でお聞きできた意見は大いに参考になった。この賞が設計者、施工者、施主のそれぞれに与えられるという意味合いを尊重しての評価と考えている。

最優秀賞の「ヒュッテナナナ」は、シンプルな山型フレームが印象的な建築であるが、その形態は、従来の技術をベースにしながらも新しい発想での部材の組合せの提案や環境に対する設計者の配慮の結果であるということがよく理解できた。また、建築の用途としてはオフィスであるが、この建築ができたことによって様々なイベントなども催され周辺の住宅環境にも良い影響を与えていることなども高評価につながった。

優秀賞の「福邦銀行フェニックス通り支店」は、これまでの銀行のイメージを大きく変える作品となっている。フェニックス通り側に設けられたガラス面とつながるように敷地西側の田原公園の緑を借景として取り込んだ計画は、周辺環境をよく分析した優れた計画となっており、また運営面でも、地域活動でのロビー使用など積極的に地域と関係を結んでいく姿勢が感じられた。ただ、外構に関しては建物前面に設けられた駐車場のボリュームがフェニックス通りの街並みに寄与しているのかという疑問が残った。

同じく優秀賞の「福井市中央公園ビジターセンター御座所」は、中央公園整備の一環として計画された平屋建ての施設である。公共工事であり、設計の際にはさぞ複雑な要求条件があったかと思われるが、柱と屋根の線の組合せですっきりとまとめられた外観は公園の風景の中に程よい緊張感をもって存在している。また、分散配置された休憩所や公衆トイレ、機械室のハコが心地よい隙間を生み出し、周辺を散策する人々を中央公園へ誘い、ここでゆったりとした時間を過ごしてもらえるのではないかと期待させる。

奨励賞の「春江中コミュニティセンター」は、背後にあるショッピングセンターからの通り抜けも意識した意欲的な動線計画、内部においても中央に設けられた吹抜けを介して各階で行われている活動が建物全体に伝わる工夫など、利用者の利便性や施設内部の一体感がよく演出されていた。しかし、ファサードやディテール面でややデザイン上の物足りなさが感じられ、残念ながら他の作品と差がつく結果となった。

住宅部門は9作品で昨年度より1点増となり、「ぶんきょうのいえ」「恐神の住居」「阿難祖の家」

「icosagon」の4作品が2次審査に進み、最終的にすべてが公開審査に選出された。2次審査で現地審査をさせていただいたが、メッセージ性、立地、施主の個性、新規性など、いずれも大変特徴のある作品との印象であった。

最優秀賞「ぶんきょうのいえ」は、既存住宅のリノベーションである。設計者としてはおそらく新築より手間のかかることが多かったと思われるが、その家が受け継いできた記憶や価値に光を当てながら、新旧を違和感なくまとめ上げており、設計者の力量を感じた。リビングに設置された大きく開放できる木製引き戸や吹抜け空間など、十分な耐震性能や断熱性能を付加して現代的な住空間を実現させたことが高評価につながった。

優秀賞の「恐神の家」は一般建築部門最優秀受賞者の9年前の作品である。様々な敷地条件から必然的に導き出された形態と、大変開放的な内部空間をあわせもつ意欲的な作品である。現地審査でお伺いした際、子供さんの思春期の成長を受け止めながら、ほとんど手を加えることなく住まわれていることがわかり、設計当初のコンセプトが如何にしっかりしたものだったかが伝わってきた。

同じく優秀賞の「阿難祖の家」は、大野市の山間に建つ100年前の旧家の建替えである。旧家の記憶や営まれてきた生活様式を取り入れる様々な工夫や配慮とともに、既製品だからとせず、よりよい納まりへのこだわりの強さが感じられた。

外観に関しては、建てられてまだ間がないことから周辺環境としっかりと調和しているとはいいがたいが、この新築を機に今後またここでの暮らしが長く続くことで、次第になじんでいくことが想像される。

同じく優秀賞の「icosagon」は、中庭という外部空間を生活の一動線に取り入れて、その周囲に個室が並ぶという、非常に特徴のある建物である。20角形をもつ平面に目を奪われるが、実現にあたっては合板サイズなどの寸法調整に細かく対応されている。特に中庭に面する大型引き戸の可動方法など興味深いディテールを現場審査で見ることができた。

2018年2月の大雪の際にはさぞかし大変だったことと思われるが、それも含めて暮らしを楽しまれている若い住まい手に寄り添って、今後どのようにこの家が使われていくのか楽しみである。

第5回の審査をさせていただく機会を得て、改めて建築の担うべき役割について、また設計者として取り組むべき姿勢について考える時間をいただいたと思う。また、審査に至るまでの細部の行き届いた

段取りや準備など、事務局を担当された実行委員会の皆さんには本当にお世話になりました。改めて御礼を申し上げます。

■ 第5回ふくい建築賞2018 の入賞作品の講評

審査委員 西本 雅人（福井大学 講師）

ふくい建築賞に応募していただいた設計者のみなさま、準備などを行っていただいた実行委員会のみなさま、ありがとうございます。今年で2年目の審査になりますが、今年も無事に審査を終えることができホッとしています。この講評では自分が評価したポイントなどを振り返りたいと思います。

今年の全体的な印象はプレゼンが格段に上達していることでした。応募書類や現地審査に加えて、最終審査でのプレゼンでは動画!!で建築が動いたり、建築に対する思いから説明を始めるなど、工夫を凝らしたプレゼンに引き込まれました。そのプレゼン技術は応募書類にも表れており、書類審査を通過した作品には共通点がありました。それは「なぜこの形、このデザインなのか」ということがうまくストーリー性を持ちながら説明していることでした。そして、この説明に対して「共感」できる点が多かったことだと思います。僕は「コンセプト、内部と外部の空間のつながり、スケール感、ディテール、素材の選定、日常の使い方、施設ごとの計画の良さ」に共感できる作品に票を入れました。この他にも建築の評価軸は多々あると思いますので、多方面から建築の魅力を伝えることが書類審査を通過することにつながると感じました。

一般建築部門の講評

一般建築部門では①～③の作品が最終審査に進みました。最終審査ではどれも素晴らしいプレゼンで、結果的には②の作品が最優秀賞となりました。今回は規模や用途がかなり異なったので比較が難しかったですが、他の作品にはない新しい働き方や空間の使い方を提案していることが良かったのだと思います。

①福邦銀行フェニックス通り支店

フェニックス通り沿いに建つ銀行の建て替えです。三層のガラス張りのファサードは従来の堅牢な

銀行とは異なり、通りを歩く人々に軽快な印象をもたらしています。通りからセットバックして建てられることで通りからの一種の間（ゆとり）が生まれ、そこに植栽があればもっと良くなると感じました。店内に入ると公園の植栽が開口越しに広がり、周囲をうまく中に引き込んでいるなど感じました。

②ヒュッテナナ

住宅近くの場所に新しくセカンドハウス兼オフィスとして建てられた作品です。単に仕事場として機能するだけでなく子どもの遊び場、地域のイベント広場など多方面に使われていることに面白さを感じました。外に張り出した耐震ブレースのバッファー空間や川床をイメージして計画された床下空間はまだ内部を拡張できる余地を感じさせるものでした。ルーバーとして使用している材木もホームセンターで調達可能な寸法で計画されており、更新がしやすいというメンテナンスに対する考え方も共感できました。

③福井市中央公園ビジターセンター御座所

中央公園の一角に建つ展示・休憩施設です。この直線状の形は道路から見るとガラス越しに公園で遊ぶ人々が見え、公園から見ると反対道路越しの駐輪場や車を隠して良い意味で周囲を遮っていました。シンプルな機能であったが故にできるデザインの幅も限られていたと思いますが、柱スパンと天井高さのバランスなど丁寧かつ端正にまとめている作品だと感じました。

④春江中コミュニティセンター

既存施設の建て替えプロジェクトです。誰もが気軽に利用できるように一部吹き抜けのある通路が中央に配置されています。この通路は正面のエントランスと裏側の商店をつなぎ、自然と通り抜けが発生するように計画されていることが良いと思いました。更に言えば、その強みである通路の裏側の入り口の入りやすさや吹き抜け周りの開放感があるとさらに良かったと思います。

住宅部門の講評

住宅部門では現地審査を①～④の作品全てが最終

審査に進み、①が最優秀賞になりました。最優秀賞がリノベーションの住宅は過去初めてかと思いません。外観がデザインできないだけに建築の審査ではどうしても不利になる面もありますが、リノベーションに付加価値を生み出した姿勢が評価されたのだと思います。

①ぶんきょうのいえ

お施主さんが事務所の掲げる「サスティナブルリノベーション」というコンセプトを知って相談したことから始まったプロジェクトです。設計する前に床下まで設計者が潜り込み耐震状況を確認するなど地道な既存調査を丁寧にやられていることに共感を持ってました。そして、古いものを単に綺麗にするだけでなく、環境性能を向上させることにも取り組む一連の姿勢が表れた作品でした。今後、住宅のリノベーションは増えていきます。この作品がそのお手本となると思いました。

②恐神の住居

表層改良や農転、過去の土砂崩れなどのマイナスな諸条件がある中で、敷地内に残った建設可能な場所に素直に建てられた住宅です。配置計画としては設計者が考える部分はなかったのですが、その消極的な状況さえもコンセプトの強みとしてしまうところに設計者の力量が見られました。単純な矩形ではなく歪んだ平行四辺形の住宅の中は大きな吹き抜けが広がり、斜めになった壁と開口のバランスにより奥行き感が演出され、中がより広く見えるように計

算されているようでした。

③阿難祖の家

里山のふもとに建つ三世帯住宅です。もともとの古民家をリノベーションする考えもありましたが、3世代が家の建設に関わっていないことから、今後100年続くような新築をとという思いで建てられました。この住宅を見学させていただいた際に既製品の扱い方が非常に上手だと感じました。サッシや建具、照明などの既製品を単純に用いずに、見付け幅の調整やモジュールを他の素材と合わせることによって既製品に感じさせないディテールが多々見られました。また、既存民家の建具を照明に再利用している発想も秀逸でした。

④icosagon

住宅地の角地に控えめに建つ作品です。円形の建築を既製品で作ることは不可能ですが、円形に近い多角形の建築は作ることは可能です。その上で製材を無駄なく使用できるために試行錯誤した答えが半径20尺の二十角形(icosagon)でした。また外壁のコーナー・パラペットのディテールなど設計者発案による納まりや寸法が随所に見られています。自分の納まりを作り出すという設計の醍醐味を楽しんでいるような作品でした。円形で内向きに開いている構成が周囲に対して閉鎖的だという考えも見られましたが、住宅だからこそ閉じることができる側面もあると思います。住宅の公共性について考えるきっかけになりました。

【一般建築部門】

奨励賞 春江中コミュニティセンター



設計監理：株佐々木一級建築士事務所
施 工：松栄建設(株)・竹野建設(株)特定建設工事 共同企業体



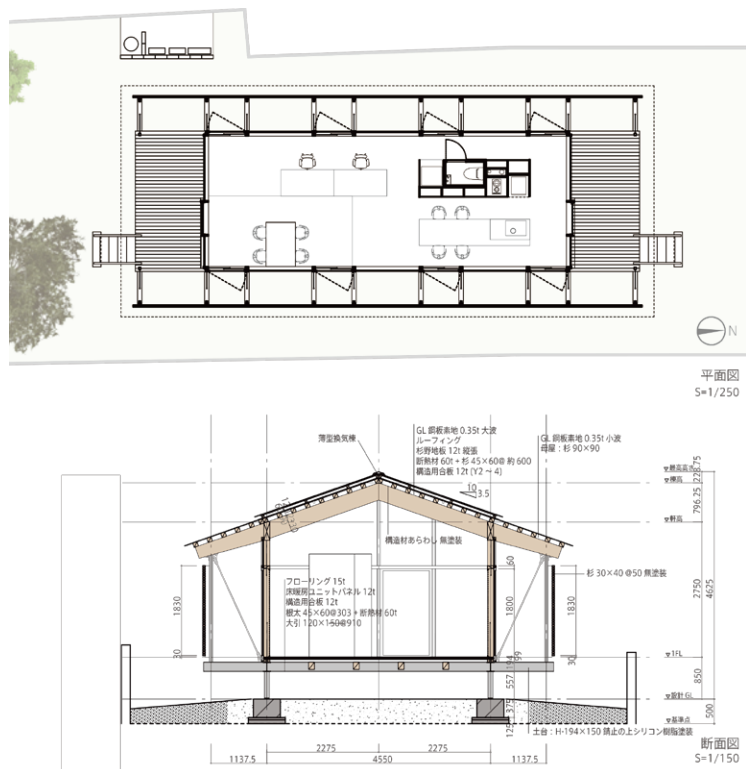
ヒュッテナナナ

設計監理：(株)ヒヤッカ
 施工：山崎建設(株)

建築位置：福井市古市
 工期：'16年5月～'16年9月
 構造規模：木造一部鉄骨造・地上1階
 敷地面積：651㎡
 建築面積：105㎡
 延べ面積：65㎡

両親が残してくれた住宅を、会社の事務所と兼用していた施主。そこから200mほど離れた本敷地は、施主が幼少の頃に住んでいた古い家屋が近隣に残るエリアで思い入れをもつ場所。本敷地は両端部が接道し10×60mと細長く、以前は長屋が建ち、一部を畑や貸し駐車場として使っていました。施主が求めたのは、Web制作会社の社屋という用途だけではなく、一人で暮らしていた施主が結婚して二人になり、娘が誕生することで三人となった家族それぞれの人生の幅を拓け、日常の生活に今までとは異なる彩りをもたらす「セカンドハウス」としての役割でした。ここでは、ITの世界がコーディングで生成されるように、建築における『コード』=意匠と構造が同時成立し、ディテールも自動生成されるものを見つけだそうとしました。完成から約2年半が経過し『コード』によって現れた建築は施主や家族、地域の人たちに豊かな彩を与えはじめています。

1. 両端の片ブレースで片持の耐震壁と梁をつくり剛接した棟部による妻側フレーム
2. 「FIX ガラス」と「両ブレース+開き戸」の反復
3. 産業廃棄物（コンクリート）を極端に減らし、再生可能素材（木・鉄・ガラス・発泡スチロール）を活用
4. 空間をつくる付加的材料（石膏ボード）の不使用
 →ITの世界でバグを発生させないことと通じる

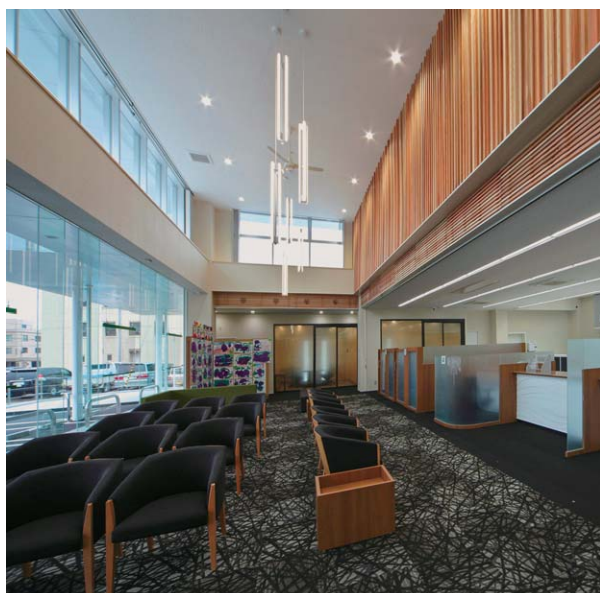




福邦銀行フェニックス通り支店

設計監理：(株)走坂建築設計事務所
施 工：三越建設工業(株)

建築位置：福井市田原
工 期：'16年5月～'16年11月
構造規模：鉄骨造・地上2階
敷地面積：1,627 m²
建築面積：561 m²
延べ面積：691 m²





福井市中央公園ビジターセンター御座所

設計監理：ワシダ設計事務所
 (合)板倉満代建築設計事務所
 (株)アルス建築事務所
 施工：(株)活衛工務店

建築位置：福井市大手
 工期：'15年4月～'16年3月
 構造規模：鉄骨造・地上1階
 敷地面積：18,460㎡
 建築面積：218㎡
 延べ面積：193㎡

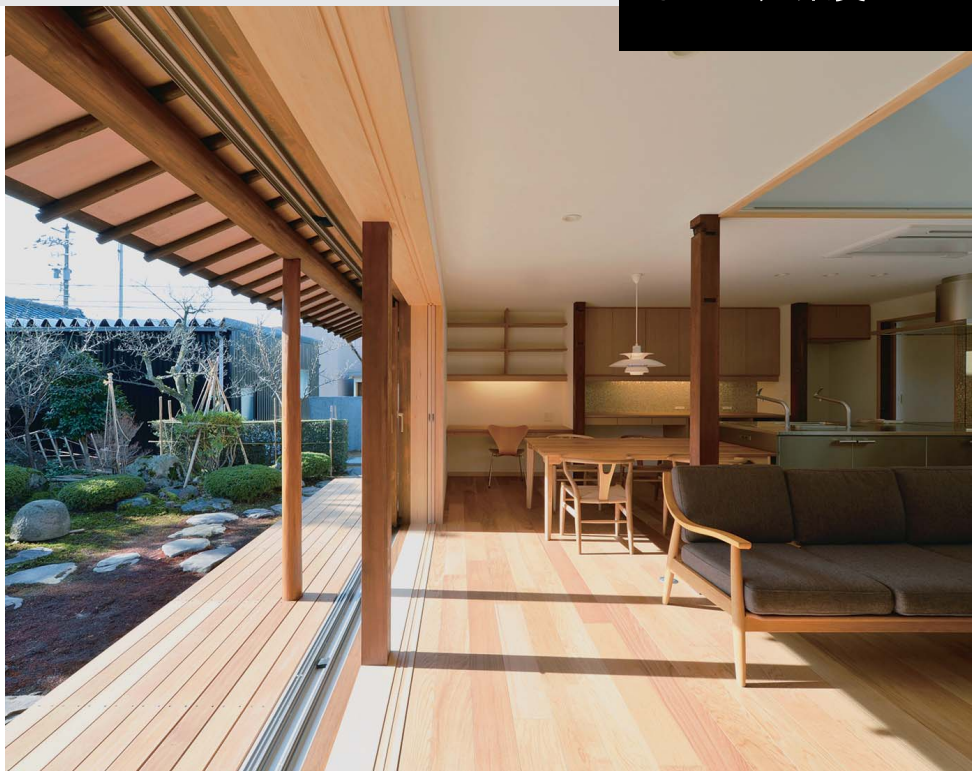
新たに生まれ変わった福井市中央公園。
 多様な人々が訪れる このまちなかのオープンスペースに
 対し私たちが目指したものは、
 「歴史をしのぶことのできる」コトづくり とともに 「都市的」
 な印象の モノづくりでした。
 このビジターセンターは
 福井市の掲げる都市戦略 「歴史の記憶を継承するゾー
 ン」において、
 様々なイベント、芸術・文化活動の利用に対応する 役割
 を担っています。
 歴史の強い特性を壊さぬよう配慮するとともに、周辺施設
 と調和した 都市的な建築の創造を目指しました。



ぶんきょうのいえ

設計監理：伊藤瑞貴建築設計事務所
 施工：株深谷

建築位置：越前市文京
 工期：'16年5月～'16年12月
 構造規模：木造・地上2階
 敷地面積：513㎡
 建築面積：149㎡
 延べ面積：194㎡

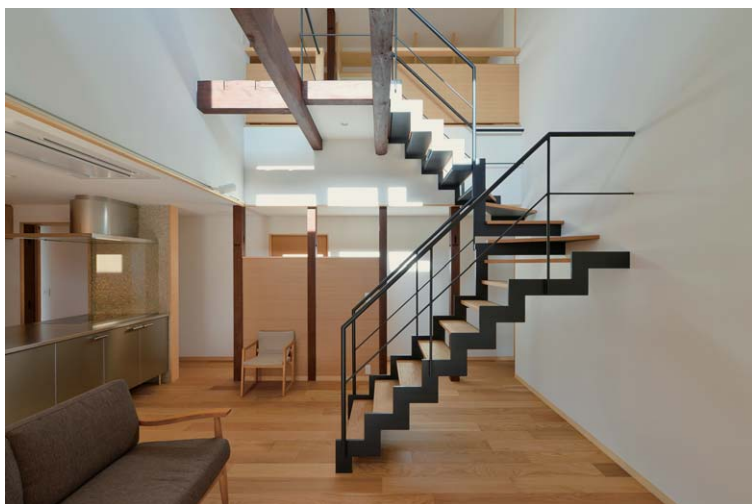


今回の住宅は、福井県越前市文京に建つ、ご夫婦とお子様1人が暮らす専用住宅の計画です。

設計当初は建て替えも検討していましたが、思い出がたくさん詰まった住宅を簡単に壊すことはできず、リノベーションの可能性を模索することとなりました。

3つの繋がりをReデザインし、
 初源的な楽しさのある住まいを考えました。

1. 時とつながる家
2. 家族とつながる家
3. 自然とつながる家





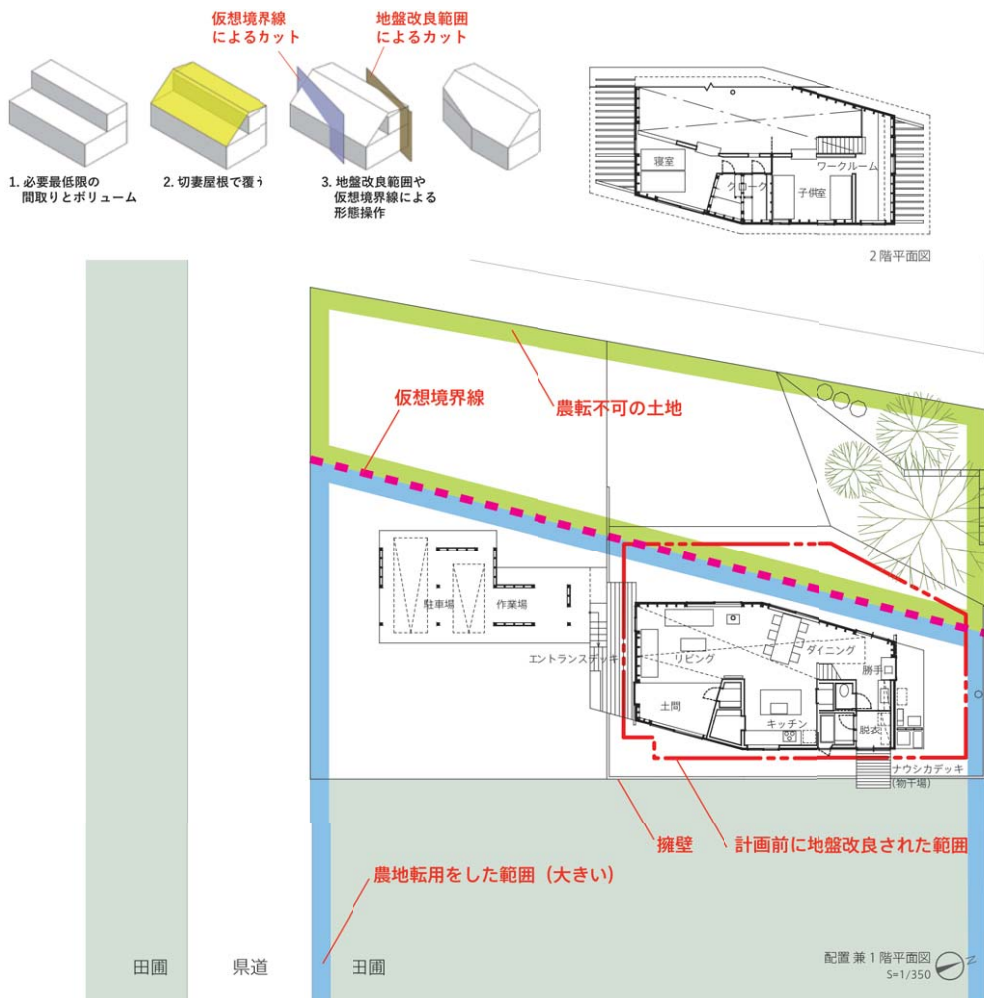
恐神の住居 斜線から生まれた形態

設計監理：(株)ヒヤッカ
 施工：(株)名津井建設

建築位置：福井市恐神町
 工期：'08年8月～'09年2月
 構造規模：木造・地上2階
 敷地面積：353 m²
 建築面積：112 m²
 延べ面積：144 m²

2004年7月の福井豪雨。裏山が崩れて当時の母屋は災害にあい、残ったのは『離れ(現在の母屋)』と農業倉庫。本計画は、老夫婦が暮らし始めた『離れ』の側に建つ若夫婦の新たな住まい。要望は「家族の気配が伝わる」「兼業農家である家族が農作業の合間にもラフに使える住まい」。

『離れ』の南側の田圃を敷地としてスタディを繰り返していくなか、ある日突然にL型擁壁が設置され、表層改良をされた盛土によって敷地が限定。その後、限定された敷地の一部が農地転用の利かない土地だと判明。更に、田舎ではよくあることですが敷地境界線がハッキリとしない状況。結果残った敷地は南北に細長い台形の形状となりました。南東の隅切は、木を植える為に表層改良がされなかった地盤を避ける為。北西の隅切は、農地転用不可の範囲を避ける為。都会では法的に発生する様々な斜線によって建物形状が決まったりもしますが、この日野川沿いの山裾で発生したのは「チチ斜線」。その制約によって、この建築のカタチが決まりました。



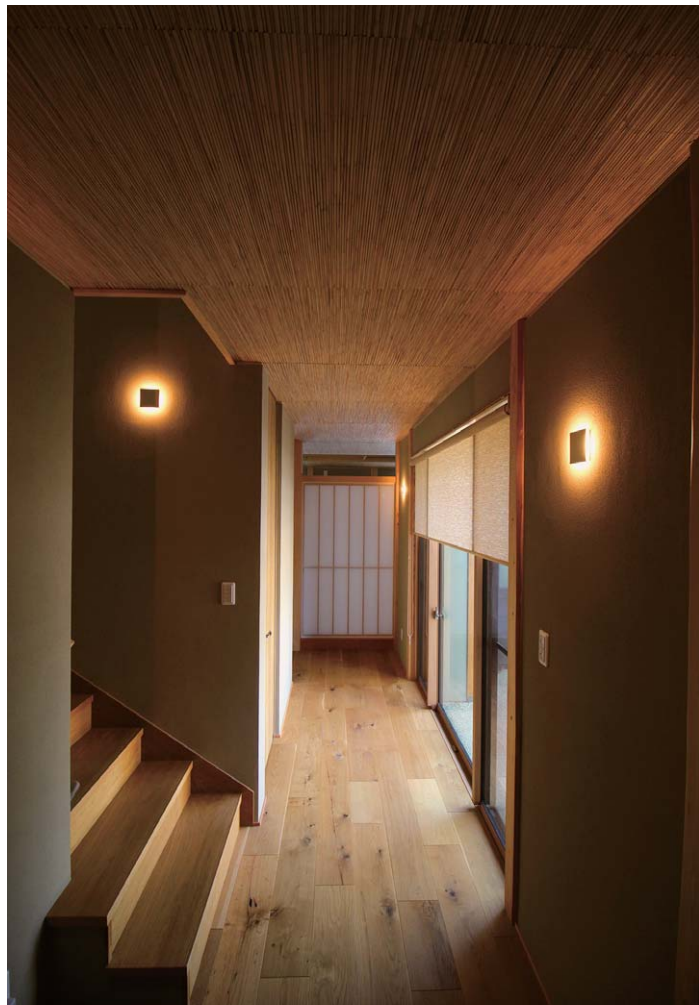


あどそ
阿難祖の家

設計監理：永和住宅一級建築士事務所
施工：永和住宅㈱

建築位置：大野市阿難祖領家
工期：'16年4月～'17年2月
構造規模：木造・地上2階
敷地面積：333㎡
建築面積：155㎡
延べ面積：229㎡

豪雪地域である福井県大野市の里山に寄り添い暮らす3世帯家族が築100年の旧家を建替えた住宅です。次世代の性能を備えつつ地域的な自然エネルギーを積極的かつ融和的に落とし込み、里山との暮らしの中で先人たちが築いてきた営み方を変えることなく活き活きとより快適に、木のぬくもりを感じながら永く安心して暮らせる住まいとなっています。





icosagon

設計監理：小笠原弘建築計画

施工：(有)不動建設

建築位置：坂井市春江町

工期：'16年9月～'17年3月

構造規模：木造・地上1階

敷地面積：216 m²

建築面積：83 m²

延べ面積：86 m²

幾何学におけるトーラスで、1の断面を中心に回転させて得られる形で構成した。

各部屋はユニットで配置し、ユニットの取り方によっては様々なエレメント構成に対応できるフレキシブルな空間とした。

